

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
治風剂 疏散外風剂 6		
しょうかつらくたん 小活絡丹	祛風化痰・温経通絡・除湿止痛	製川烏頭・製草烏頭・地竜・製天南星各 180g・乳香・没薬各 66g 細末を蜜丸にして1日1～2回3gずつ酒か湯で服用する。
和剂局方	<p><主治> 風寒湿邪留滞経絡 風寒湿邪による肢体の筋肉拘縮や疼痛、関節の運動障害、あるいは風邪中経絡による四肢の知覚や運動まひが長期にわたって重だるさ、疼痛が加わったものである。</p> <p><病機> 風寒湿邪が経絡を阻滞して、気血を凝滞させ、筋脈の拘縮、痺痛、屈伸不利を来たしたり、風邪中経絡で手足不仁が生じ、長期にわたることにより経絡中に湿痰、血瘀が発生して腰腿沈重、腿臂間作痛を引き起こす。</p> <p><方意> 経絡中の風・寒・湿・痰・瘀を駆除する。 辛熱の川烏頭・草烏頭は祛風除湿、温経通絡および強い止痛の効能をもち、主薬である。燥湿化痰、熄風止癢の天南星は経絡中の痰を除き、行気活血の乳香・没薬は経絡中の瘀を行らせ、地竜は通経活絡に働いて、主薬を補助する。酒で服用すると、行血して諸薬を病変部に直達させることができる。全体で祛風化痰・温経通絡・除湿止痛の効能が得られる。</p> <p><参考> 本方（小活絡丹）は薬力が非常に峻烈であるから、体力のあるものに適する。 陰虚有熱、妊婦には禁忌である。</p> <p>加減法 風盛で遊走性の疼痛を呈するときは、大秦苳湯を併用する。 肝腎不足に偏するときは、独活寄生湯を併用する。</p>	